



「飯山橋場バス停前

・道祖神の正月飾り」

(撮影 小林会員)

令和5年1月号 Vol. 225  
(2023年)

発行：令和5年1月10日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <http://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス [atugikanvola@yahoo.co.jp](mailto:atugikanvola@yahoo.co.jp)

発行責任者 会長 森島 誠 編集担当者 澤田 正弘

## ＜宮ヶ瀬の紅葉と南山からの絶景＞

行事区分：企画ガイド（ハイキング）

日 時：12月2日（金） 10：00～14：40

場 所：宮ヶ瀬～南山権現平

参加者：一般17名、会員8名

企画ガイド参加者の高齢化が進むなかお客様と会員の安全確保、計画の質の向上に向けた課題が浮き彫りにされたハイキングとなりました。

11月18日の下見は本番参加会員全員で実施しました。一番の問題点は“南山直下にある鎖場の急な下山道をお客様が安全に下山出来るか”でした。また、南山からあいかわ公園までの下山は急な階段が続いており、お客様の疲労が心配されました。議論の末、本番の朝礼にて鎖場の状況と階段が続く長い下りをお客様にお伝えし、権現平でお客様に再確認し、南山から鎖場を経てあいかわ公園に行くグループと鳥居原に戻るグループをお客様に選択して頂く事にして、参加会員の役割分担を事前確認しました。



本番当日は朝から雨が降り、下山路が滑りやすい状態が想定された為、急遽南山手前の権現平から鳥居原に引き返す事を判断し、朝礼にてお客様にお伝えしました。一部の方が歩行に支障をきたす事となりましたが、会員のサポートで宮ヶ瀬バス停に無事到着。参加頂いたお客様から100%満足とのお礼状が観光協会に届きましたが、今回の経験を基に来年度の計画や準備に関して再度見直しをする事にしました。 (山下潔 記)

## <七沢城と七沢の里歴史を訪ねて>

行事区分：企画ガイド（歴史探訪）

日 時：12月16日（金） 9：30～12：30

場 所：東丹沢七沢観光案内所～七沢城址～玉川館～観音寺～徳雲寺

参加者：一般23名、会員10名

いにしえ、歴史に確かにその足跡を残し、今もその地名に名残を残す七沢城。そして文人墨客に愛された厚木の奥座敷七沢温泉。冬麗な師走半ば、丹沢山系の東端に位置する七沢をご案内するガイドが行われました。

今回、お客様が23名にガイドが10名、総勢33名の大人数となったため、密を避けるという観点から急遽コースを分け、1班は七沢神社遥拝所→門口→七沢城址→小林多喜二の隠れ家→中村雨紅・和田傳の石碑→観音寺→徳雲寺、2班は門口→七沢神社遥拝所→七沢城址→中村雨紅・和田傳の石碑→観音寺→小林多喜二の隠れ家→徳雲寺の順にご案内をすることになりました。



穏やかな冬晴れの下、山々を背に建つ七沢神社遥拝所や、歴史を伝える七沢城址。木々に包まれて建つ、中村雨紅と和田傳の、この地への想いを今に伝える石碑。想いと共にひっそりと、大切に守られてきた小林多喜二の隠れ家。そして静かに佇み、永く人々を見守ってきた門口の道祖神と供養塔、観音寺や徳雲寺。

皆さん、ガイドの説明に熱心に耳を傾けて下さり、時に頷き、時に笑い、メモを取られる方、またご質問をくださる方など、お一人お一人がその時代や出来事・背景に想いを馳せてくださっているご様子がとてもよく伝わり、担当するガイドもそのお気持ちにお答え出来るよう、一生懸命にお話をさせて頂きました。また観音寺では、ご住職がご対応下さり、貴重なお話を伺うことが出来ました。

そして帰り際、多くのお客様から笑顔と共に、「是非また参加します」というお声をたくさん頂けたことが嬉しく、また安堵致しました。

今回のガイドを担う中で心に留めておいたこと、それは七沢を身近に感じていただくことでした。自然豊かで趣があり、良質な温泉が湧く魅力的なところですが、近いが故に、七沢は足を運ぶことの少ない「近くて遠い」場所なのかもしれません。今回ご参加のお客様にとって、七沢が「より身近な」場所とっていただけるガイドになっていたら…と思います。そして改めて、ガイドが担う責任…自然・歴史・文化など、この厚木の持つ沢山の魅力を、自信をもってお伝え出来るよう、研鑽に励みたいと思いました。（毛利 記）

発表

あつぎ観ボラ会員が選ぶ

厚木市内の好きな神社ベストテン!

12月号で募集した企画。厚木市内にある神社58社（対象：厚木の歴史探訪5神社）の中から、自分の好きな神社3社を選んで投票していただきました。また会員が1番目に選んだ神社には、選んだ理由を書いていただきました。その結果第1位は12票を獲得した厚木町の厚木神社となりました。また会員が住んでいる近くにあり、なじみのある神社の投票も沢山ありました。多くの投票をいただき有難うございました。

- 1位 No.12 厚木町 厚木神社
- 2位 No.55 上荻野 荻野神社
- 3位 No.23 小野神社
- 4位 No.25 七沢神社
- 5位 No.13 松枝 船喜多神社
- 6位 No.16 温水 春日神社
- 7位 No.20 愛甲 熊野神社
- 8位 No.11 旭町 熊野神社
- 9位 No.22 長谷 堰神社
- 10位 No.44 飯山 龍蔵神社



投票で第1位に選ばれた厚木町・厚木神社  
(撮影：編集担当者)

### 会員が1位の神社に選んだ理由

#### No 12 厚木町 厚木神社

◎当協会のガイド先として一番お世話になっており、また同神社の祭礼には何度か招待頂き、昇殿して神主さんのお祓いや詔を頂いた。(山田)

◎創建が平安時代1000年前頃(969~984年の時代)に京都朝廷の摂政職、藤原伊尹(コレタダ・藤原道長の叔父、宇治の平等院は道長元別邸跡地)により勧請された天王社。隣地に関東大震災記念碑「厚木役所跡」の碑あり。(眞野)

◎皆さんご存知の明治になる前は牛頭天王を祀っていた牛頭天王社で、厚木宿とは切り離せず、逸話も揃いガイドのメインポイント。(前澤)

#### No 55 上荻野 荻野神社

◎とにかく立派な社殿。市内で最古、最大級の本殿はもとより、延享年再建の拝殿、幣殿も見事。(清田 邦)

#### No 23 小野神社

◎愛甲三郎によって再興されたとも言われています。明治時代の始めころまで、伊勢神宮のお札が小野神社にまとめて届けられ、そこから周辺の各神社に配布されたりしました。寒川神社、阿夫利神社と共に格式の高い神社だったからです。(佐々木)

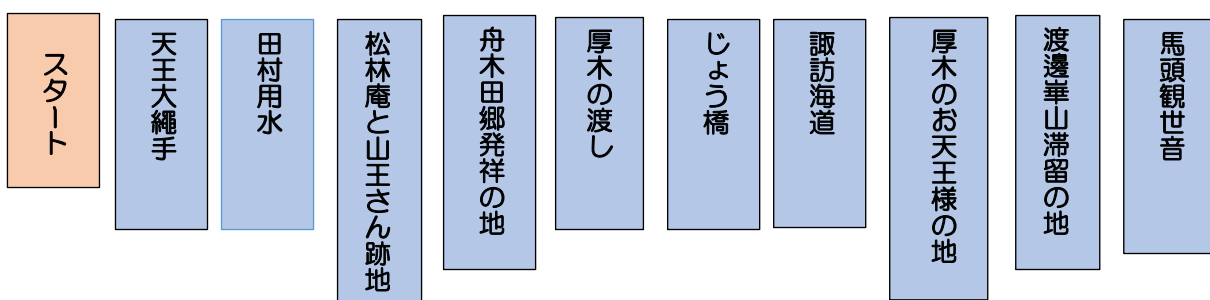
### <道標巡り(厚木北地区・厚木南地区)>

行事区分：会員研修(歴史探訪&ハイキング)

日時：11月28日(日)9:00~12:30

場所：厚木市内の道標13カ所

参加者：会員7名



11月28日月曜日9時、会員7名が中央公園入口の「天王大縄手」道標前に集合し、天気も良く暖かく気持ちの良いスタートになりました。

私は、以前から厚木市内にある105の道標に興味

があり一人で色々廻っていましたが、改めてお客様を案内するという観点から歩きました。

市役所前「天王大縄手」、現在の厚木の中心から「田村用水」を通過して相模川「厚木の渡し」厚木宿、青山道を南に下りました。

きりんと橋

旧平塚街道

郡境

ゴール



今回の渡邊華山の「游相日記」「厚木六勝図」に沿ったコースは9月のガイド養成講座で聞いた話、各々道標について、公民館で借りた本の話と合わせると以前に歩いた時に増して興味深くなりそれを加えて話をしました。

この会員研修ではベテランの会員から厚木の繁栄、田原藩について私の説明以外にも多くの説明がありました。

街の中や、道のわきにある道標を車やバスの中から見て興味を持っている人は多いと思います。多くの街道が集まって小江戸と言われ、渡邊華山も「厚木の盛なる都とことならず」と書いている厚木を見直す機会として、これから身近な街歩き「道標巡り」を企画ガイドに加えてはと思いました。

(小林 記)

### <かながわガイド協議会 合同研修・交流会>

行事区分：外部研修

日 時：12月8日（木） 10：00～16：00

場 所：横浜市金沢公会堂

参加者：会員3名

合同研修会は、来賓6名、19団体110名（うち45名は横浜金澤シティーガイド協会会員）の116名が参加し、協議会会長、金沢区長、県観光課国内プロモーショングループ副課長の挨拶の後、神奈川県立金沢文庫主任学芸員山地純氏による「鎌倉から江戸時代の神奈川」と題する講演がありました。

金沢は、鎌倉時代から江戸時代にかけて、「かねさは」と呼ばれていましたが、水戸黄門こと徳川光圀公が鎌倉へ巡遊し、編纂した新編鎌倉志に金澤に「カナサハ」とフリガナをふったのが原因とのことでした。水戸の御老公が関わっていたとは驚きです。



金沢は鎌倉の外港で遠浅の鎌倉に代わり、唐物を乗せた大船が着いて栄え、北条義時の5男実泰を祖とする金沢北条氏は書籍を収集し、武家最古の文庫金沢文庫を作りました。鎌倉幕府滅亡後、文庫は称名寺が管理しました。徳川家康は称名寺に100石の所領を与

えられましたが、代わりに文庫の書籍は江戸城へ運び出され、一部は御三家にも分けられたそうです。明治維新後、江戸城の書籍は宮内庁へ移管されたそうです。

午後の交流会は、「中世／鎌倉時代の金沢ウォーク」（36人参加）と「中世／鎌倉時代の金沢と範頼伝説ウォーク」（25人参加）の2コースに分かれて街を歩きました。あつぎは3人とも「中世／鎌倉時代の金沢ウォーク」に参加しました。6～8名で班を作り、横浜金澤シティーガイド協会には各班に1名ガイドを付けていただき、途中2～3名が要所で交通整理にあたってくれていました。出発前に受信専用の小型のトランシーバーを貸与され、各自持参したイヤホンを付けて準備完了。あつぎは海老名ガイド協会と8人の班となり、一列で歩くと最後尾はかなり離れましたが、ガイドさんの説明や注意ははっきり聞き取れました。

金沢八景の名勝は、現在は埋め立てられ、かなりの部分が陸地となっていますが、瀬戸秋月で有名な瀬戸橋では、「あそこの松林が絵に描かれたこの島です。」などと浮世絵、古写真、当時の陸地と海がわかる地図などで説明してくださり、イメージが湧いてきます。



源頼朝ゆかりの龍華寺、金沢八幡神社、源範頼ゆかりの薬王寺を経て、金沢北条氏の菩提寺称名寺へ。寺からトンネルを抜けて神奈川県立金沢文庫へ。

会議室で午前中の研修会でお話いただいた山主任学芸員が称名寺と金沢文庫で開催中の特別展「法会への招待—称名寺聖教・金沢文庫文書から読み解く中世寺院の法会—」について、ビデオを見ながら講義していただきました。

紙が貴重だった当時、これらの文書は、金沢氏等からの手紙などに水をかけ、たたき、天地左右を切って再利用したものが多く含まれ紙背文書といわれているそうです。金沢文庫文書 4,149 点と称名寺聖教 16,692 点を合わせて 20,841 点の文書は、80 年の期間をかけて整理し、全部をまとめて国宝に指定されたそうです。

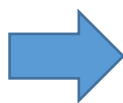
講義の後、特別展を見学しましたが、山地氏が同行し、展示物について解説してくださり、密度の濃い1日となりました。

（清田邦記）

### シモバシラの紹介

「シモバシラ」はシソ科の多年草です。秋に花を咲かせ、冬には地上部だけが枯れてしましますが根はまだ元気で、茎に運ばれた水分を噴き出して冬の寒い朝方に冷たい外気に触れて氷となって花びらのような形の氷の華が作られます。高尾山で撮影しました。

（提供：鈴木会員）



## 最近の活動

日時	場所	内容	参加者
12月 8日	横浜市金沢区	かながわガイド協議会 「合同研修・交流会」	会員 3名
12月 9日	七沢地区	企画ガイド 下見 「七沢城と七沢の里歴史を訪ねて」	会員 5名
12月10日	アミューあつぎ	定例会	会員 19名
12月16日	七沢地区	企画ガイド 「七沢城と七沢の里歴史を訪ねて」	会員 10名
1月 5日	相川公民館	編集会議	会員 3名

### 編集後記

令和5年が始まりました。南毛利の中央を流れる恩曾川の土手の道を毎朝散歩しています。水辺でカルガモが数羽泳いでいるそばにアオサギとシラサギが並んで立っていて、それを土手の上からカラスが見学していました。平和でほほえましい光景です。これにカワセミが加わればさらに賑やかになるのですが。新型コロナウイルスの感染が始まって丸3年、第1波から始まった感染の山は、只今第8波の真っ最中です。普通の生活、普通の活動にそろそろ戻りたいものです。前澤宜子編集委員が先月号で最終となりました。長い間ありがとうございました。

編集委員 阿部 啓冊 小林 直樹 澤田 正弘